

公益財団法人 8020 推進財団  
令和3年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：学校におけるバスケットボールでの歯の外傷の実態調査

2. 申請者名：吉田 直人

3. 実施組織：一般社団法人横浜市歯科医師会

4. 事業の概要： 我が国におけるバスケットボールの競技登録人口はサッカーに次いで多く、2016 年秋に開幕した B リーグによって競技者人口は増加傾向にある。しかしながら、学齢期での球技における歯の外傷はバスケットボールが最も多く、特に部活動においては歯の破折、脱臼、脱落、歯槽骨骨折等が多々みられる。

学齢期における歯の外傷の実態調査をバスケットボール指導者対象に実施し外傷の状況を把握することで、外傷予防、外傷発生時の対応を行っていく。

5. 事業の内容： 横浜市内のミニバスケットチーム・横浜市立の中学校、高等学校のバスケットボール部の指導者に対してアンケート形式で実施して、外傷の頻度・マウスガードについて・受傷の際の対応等を調査した。

調査結果に基づいて外傷予防(マウスガード)・受傷の際の対応のフローチャートを作成して啓発活動を実施した。

今後の歯科医療機関と教育施設・スポーツ団体等との連携の強化を図るために、横浜市教育委員会及び横浜市スポーツ協会と協働した。

6. 実施後の評価

今回、横浜市教育委員会及び横浜市スポーツ協会の協力のもと、小学生ミニバスケットチームの指導者・横浜市立中学校、高等学校バスケットボール部の指導者に対して、アンケート調査を実施し 135 名の回答を得られた。

マウスガードに外傷の予防効果があることを知らないと答えた指導者が 14.8%。バスケットボールが歯の外傷が最も多い競技であるといった設問で 87.4%に知られていなかった。また、バスケットボール競技規則で無色透明のものに限り着用を許可されていることも 60.7%の指導者に知られていないことから、マウスガードについて、またコンタクトスポーツによる接触事故による歯の破折や喪失が起きることがあることはバスケットボール指導者の中で十分な理解が得られていない。学齢期のむし歯は減少していても、競技中の事故で一瞬にして歯を失ってしまうこととなれば、児童生徒本人・保護者にとって悲しいこととなる。これから競技をはじめ、またははじめばかりの学齢期の競技者や保護者にこれらの重要事項を周知するためには、指導者に対する周知が重要と考える。

今後のマウスガードの普及には日本のトップである B リーグの選手が着用することが学齢期の競技者への普及に多大な影響を及ぼすことが想像できる。教育者・指導者とともに、プロリーグへの啓発活動を図っていくことが重要であると考え。

不幸にして外傷により歯牙への影響があった場合の対応についての調査でも対応方法は理解されていないこともわかった。保存液「ネオ」の周知とともに、誰が見ても対応方法を理解できるようなフローチャートを作成し配布したので、このフローチャートの活用を積極的に促していく必要があると考える。